堀江物語

全

京
190

東京圖書館
類 珍 屬 京 函 六 架 一九〇 号 冊

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

WC15219

堀江物語 上

阿波國文庫

不忍文庫

それせけんのむ志やうをくるんじゃ化世のさぐごめ
なきまるをしふまだれか久しくさうへ何まの人かな
がらへもろべきぞ。ちりんなるものハ悉みとろへぞろもの
久しからぬ生ある物ハ志しぶふ物ハワりざれバぶん
ろうま月をまるへもあろさハ蓋つ日のこをよかれ
きんこくま花を詠ぜしこもがらも花と芸ハかりら
ねどもかのちぐこハいぼくふかかれなる年しく乃
花ハかりらぬどもつ日の人同じからぬ人乃又十年
げてんのうちまくらふれハ夢まぐろしのごとくなる
こふかうぼけの虫の住人原此新ざへまんとて六子

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

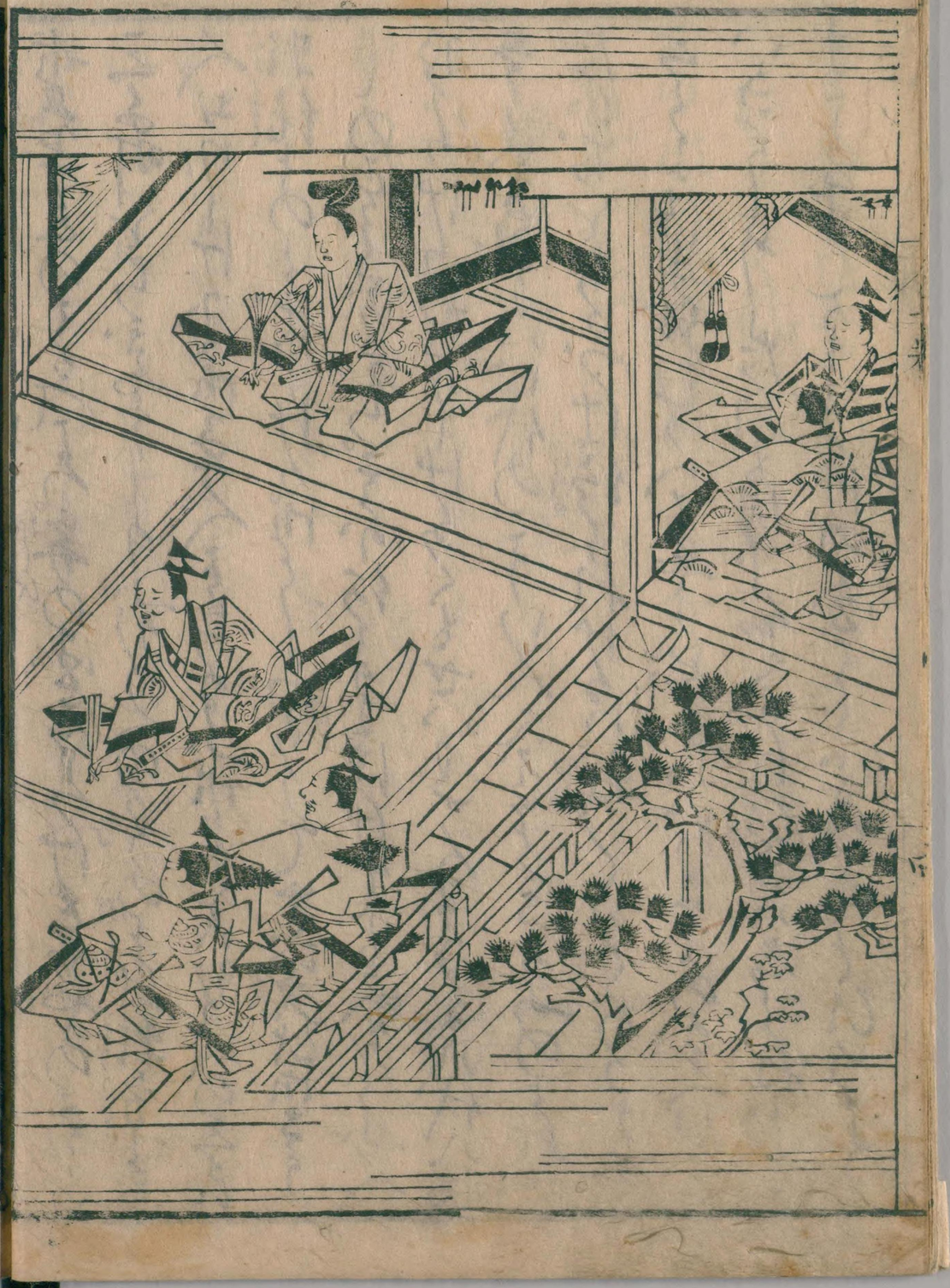
ガラス使用

町をちぎやうしなふ。長者一人おりしまは冥分に
万れくらをとて。何なりまつけてを。道起なりはなし。
きんぶち宮人もちたまふ。三人はなんしをとは姫を。
りのひめのいつくしなる。光ぞんじれ女三のこやも
かくやと思ひきこれたり。ひとはいのかんざしたをやり。
せいらいのまゆぞこは。忍んざんの矢ふりく。玉のひかりま
をうごとし。ぬかれまいひかけやりよ。おいきやうまぎり
の御姿は。楊柳の風まなひくがごとし。柳のこれをまなへし。
なかなかけまて。ゆずきのおまぞだをれおもろ風情を
御をうごとのなりびなきは。かんの里ふ。ぞんそとをりびめ
きちぎやう天女とは。是はいかでゆきうへき。御侍所

一町ひ所のけて。ごをひまぐれ御所をとて。ぼいぢの
うちは宮面は宮さをまなびたり。先ひぐしは妻のけし
きまて。さしれ妻柳いとみぐれ。こずゑまさへぼる。鶯の。
妻柴はみゆるおそざくら。霞はまがふ梅がえのぐちふく
風もなりしく。あこれにぞ忍はあをとぞふて。万の花もさ
らぐれむめうえまりふ。春風もちる木のさくはさむうゆ。ゆき
りとのこそぐうこがつる。雪は夏のけしきまて。ぞはまは池と
なりせて。一月宮面の御ぞうをとて。松のあらしもをさ
まじく。うられ今ふりはゆのづくらぶ。ぶんのさわはことか
らぐ。松はかくまる花の花。きしのみぎはまさ花みぐれ
名はうつまるありさゆは。波の花をとうこがつれ。山時雪

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

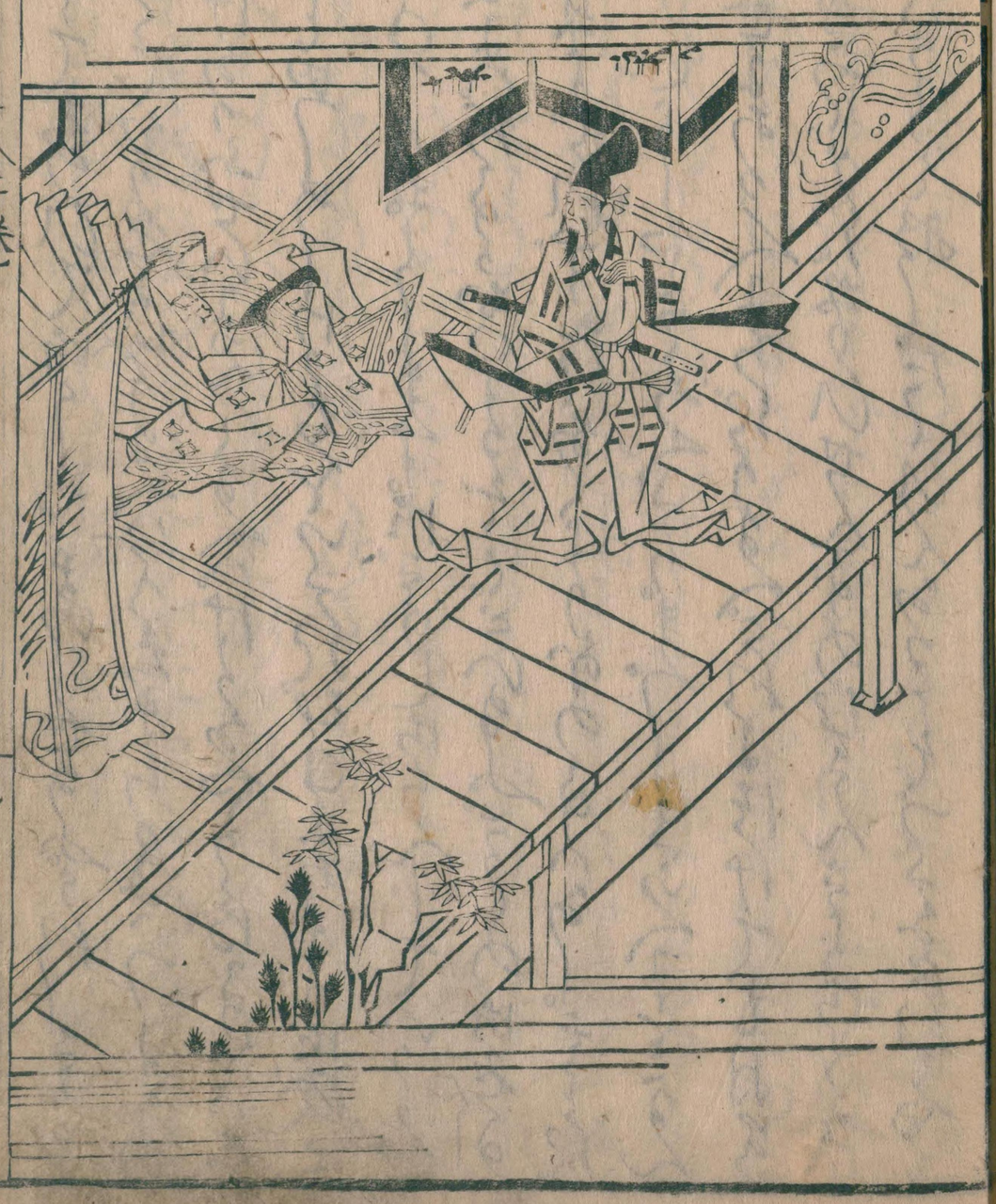
ガラス使用

よふたぐひなきびぢんときくとのまへはゆふのやの
それにそおもまほしきとて。やそ御みあそりして
御ぎりしのめれて安芸たちとつきりしまふ。ぢら原乃
たちへこへ中門にそうぞしおんなりいやせはそうしやお
あひ何ものとこふ。ぢもうけの虫ありへのうふのとれより御
みとてさしおもひ。いそぎうちへさいりくとやせは原乃
御みひらきんらんして。ぢの方にはよしのうまへは御
よろこび。ぢかぎりなし。やがて御使と出やうじいれ。
の御すてなしさ毎くへ。色は當庭の御よろこひとて。
上りん十足よりさるまくらおきてぞひれける。一とう
のきんやくまもおよぶぞとて。そのまゝまうじやうや

されば色は。使は志りつけにかりかうぶのとれ御色る
御涙んじて御よろこびはかぎりなし。昔日忘らひ周さ
どもひことはもおよぶれず。三日もありしかば原のた
ちへぞ。つきせのまふ。原乃まもりもて志ゝくのるなれば。
御いとひのありさ毎なりくや斗なしかりへのうち夏
まは。百物百枝をじめて。ぱるそうしきこまるまで。ぞ
十物三十物をとくに粉をはくしてひれける。三日
乃御いとひすがしかば。姫君のかくへいらせなひて御
らんぜれはぞれにやまず御よそ御ひえいぐ程なく
姫君むりひとりいつきうしづきなりぴよく事ん
里の御ちぎりあさうしぞとぞやうしけるかくて御

なくなりまゐらぬ。かのうさくは此ならけきまとへていたん
うるも形しぞてまゐべきまゐらぬ。ぞれは此ぐのいとなき
えはくろひ。公のまゝに此ことなひ。四十九ゐるは三十三本
乃そとばとこそくやうして。此の此ゐるも三十ゐるに
は此さ母をうへ日光山の鳴りとにあんぢつとむすび
給ふ。さて百ケ日もたゞざるに。いつなり此事まや。志りや
こゝり三ヶ町と此くがうへめしあけられてなり。忠七
百町ばかりちきやうしまゐへは行るもしりしまゐへて
さびしきにすまゐんおんのごとく原爰はよしきて
まひて。せまくは有うなれ物をこゝろめるまゐり。忠をも
ぎるはなしかやうのものとむこまゐりぬるこそ口をしれ

いかにもしてひめをえかへし。犬名かうけまゐんと
させばやと思ひたばかりの文こまりくとうれしこゝろめ
てぞとゝられけるひめ君なみ此らんじて。此ゐつか
なく思しめしいそき原へこへまゐふ。原爰よろこびて
一ヶ所へ入まりたゞ今これへよびけるまべちの志さ
いまおしばしばらく物をあんずるに。ぐへの身はひんなと
つゝきるまはなしいく程なれ世の中に公ゐるしさひ
んじやまそひてそんよりも。世にあるへまあひなれて
父母に公ゆすく思はせまへとの給へはひめ君むまうち
此まぎらふれとのくさいごに給られしまゝしとさう
のやうに思しめし。此源せきあへず。原爰此らんじて。



おやの思ふ程子ハおりもぬるすれなきけなやおのぞん
ぞう三ヶ日になぞりとおしゑてぞれぬるすのひのん
さよしきぎならばとてめしうとのごとくに一刀ゐ
る所へおし入なりぞいてもしやひめ君父のめいをそむ
けハふうのつゝのがれがたし給ましたがへハ父こんじやうの
るすハ板をきぬ俵の世までとちぎりしまず互も云
らぬひけるすに形りたてんかあしさよぞうへ月ゑもい
てきつゝ上ゑたらぬ思ひにぜんかたなくふしたづゝ
てぞおりしまずぞ程にまたうへきたりたまひて
りしなれ父の給さぞ公ゐるしくおもすしんぞるすも
ゐらハにかくしたらハすゝるすえぞりしくいそぞかへり

給へとて志のひて出らしをまいらせまゐらぎれしさうぎ
里取るてありしを誘りまへいつ志まちるゆいつしかなつ
かしげなりふぜいにまへしまへいけるやうなるとは志
らてと思しめしけり志をいふ紀ぴゆまおまりは深さ
とめうのてうれしまず出ざうしはらんじていうやや
原爰にハ給るまかおハするぞとぞいまふぞうくの出来る
ふとれまゐれずたゞなくよりおのるまハなし。志と紀
出ざうしよしやこうへうりまづしきいへにまとまん
よりぴせまあるへにちぎりまへこれに法けても月の
いてきつぞ紀れりひせんずのむさんさよ。出らに出
身にハうらと取しだくひんなることそつくるなれやく

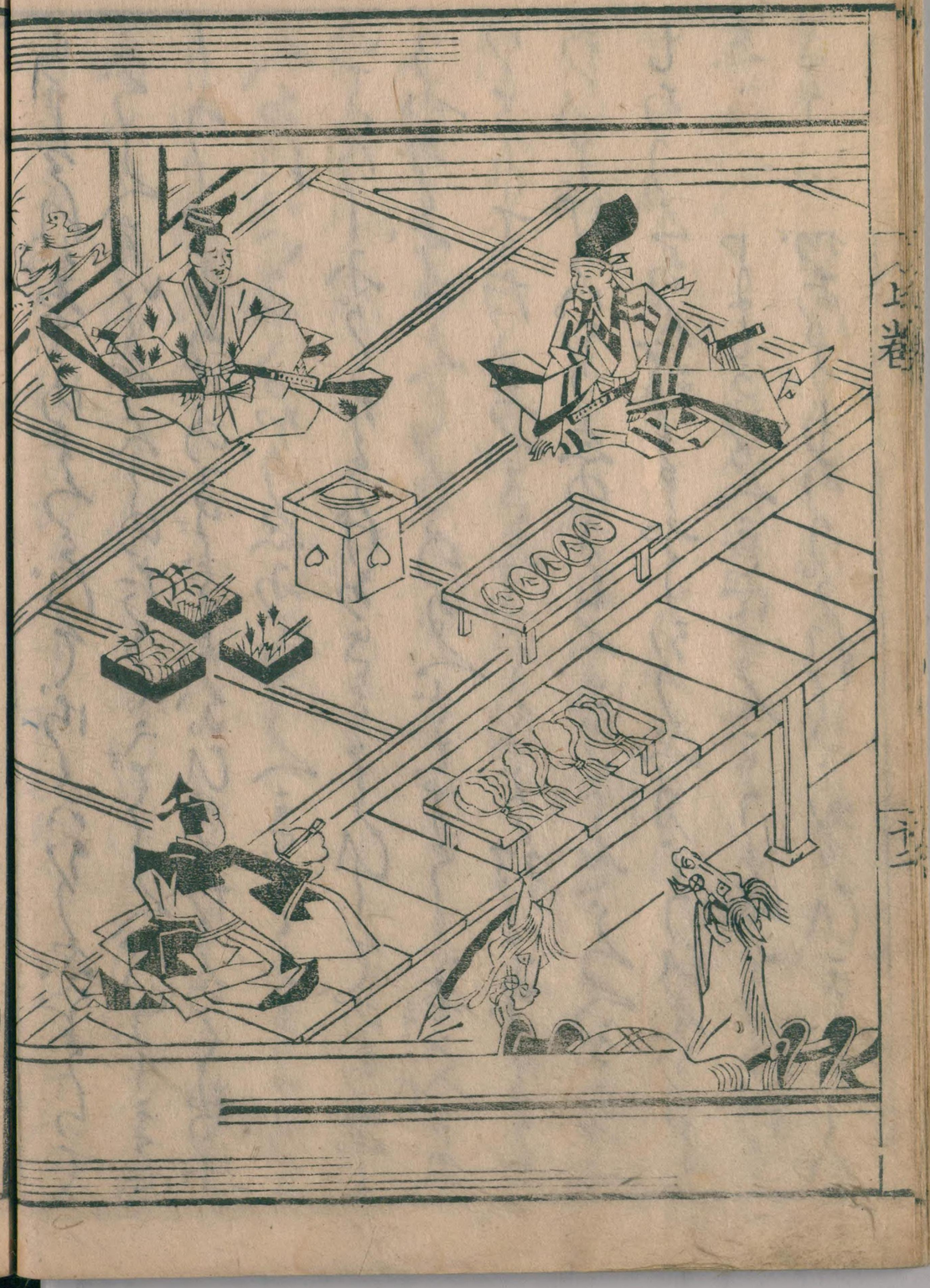
原へいたりまひて父のめのにまたがひまへとありなれハ
ひめ君なるぞと其さへうたもの君の給やふ父とひと
しき公なるハいかでかこれまて誘るべき。身代なき物に
なりしまてぞさつりうるしもなき紀。其りせうまとて
出たもと紀志ありしせまへハ出ざうしさてハふさぶる給
ま紀とハいとうたりたりまとうりいよくいつたり
るまじきとのだぶいの出ちぎりとそゆましけり。出
程に父の原とのハ身代くしまるをあんずるに。ひめう
らがふハありじ。いかもしてひんなりありしをとし
なりてきなひめをうんとぞたくしける。又その此
故より三でうひしのうぬんにぞちらは中なぞん

乃ひとり子は三位の中ぢやうと申人は此所のこくしは
くぐわいすぶ。しかは此仏はなふつまなくしてだけ也
まふ此まへはあるへややう。原の新さへもんが母とひめ
こそよふ者ぐひなれびぞんまたしと申。中将ささこ
しめしいまぐぬしはなきうとさいおふ。さまうけの国
なり忍のこうれと此こまとりて此と申。たとへさやうは
てありも何とそして此りひとりんと給はれば。かの
主の申けりは。ぽづ原とのと申人何なまつけてもよく
ふりさんと申へはかれとめしよせられ数のたら
とおさへこうろとうりて此らんとと申されは。中将
がふ事と思しめしぬ。いそきはりひとしてよふ。原を

何なまなりしんとちきふ出どろき。やてさいりくなふ
中将いろくのちんふろととしのくて。酒とすしめなへは
何なまとはこしのどしと紀のめんがくう紀りなし。こ也
きんなりぞのるまなりふ。こくし給けりやは。国のなす
よろづぶあんなりぬ。かふよりして此子はなり何なも
たのこやさんと出りせられは。日ともうり称がひのこと
なれば。そのまゝ申やうじやうさ申さ御くこくしちき
ふよろこび。ころさてるまあつきくらおりせ十足。ろ
きてるまくろきくらおりせ十足。此さげてるまきんぐく
申んのくらおりせて十足。そのおりこぞ。ころ。まさ
はしぎまて数をこらぼひられけり。原どのはられし

さかづきたくはへ、うき原にさゝげけり。三人のおの〳〵を
よび出のうへにむかひ、我こゝろをつくしてこそまち
てける。ちんじやうせんかたのなきのはかりなさとてこの
たのむ御心よせすへは、我のことく陵とたのみしのたまひ
けるは、おのゝきまゐのほとけやひめはいかにこころやす
くのわたりならんと出づるに、ありさまもとものほんとゝ
思ひつゝまゐらせおほえけるさまにて、はかりよろこ
ぶ事ぎ、なりけれは、三人の者どもよろこびて給ひ
やけり。原との夫婦は、うけたまはりて、あつ
ぬけるとのかへりは中すことの文のめいといひ文ことの
はなれはこそさかしと思ひ給ひとりて三人の

らかれは、原どのゝよろこびてはかりなくとらて
こゝろへもせんとのたゝかへもとくへはしこゝ
しめしのすゞしうかひめかりおく御ふ
人なれはこそありおふくらへさごとさうなも
いでたしふくなさけおさそひてのちなと
おふおくりへしくのおへどもすこしも心人は
りぞしてたゞろべきそへくきかうおふ
おひやけるは、ありおのさらへ御しせうへさう
もあり。ごおん深うやすありおもてうひんおりと
むかしの命をもらひてんまうとののし。わか
さう百様おまうありぐれうら思ひこさうぶ



国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

くなくさうみすへ。きこゝあまは此むかひまいらせると
うれさう。此ざうしひめ君よ此りひ。これく此らんと
へよりぎこひんかりとて。おくさまひて此こゝせかさる
へまひしが。思ひ為ましまふか此みうれしくハこゝとも。
月をかるす何とうきこし給ぞねこそぷしんなれとの
まへば。姫ぎこゝ此らんじて。おんあいのかなしこゝうらかん
おかじ此みえなつかしくて。此かわよをしあて。濃よ
むせびまひけり。此ざうしよくゝ此まをあんずるに
まことしからず。へこゝいまてあらんとて。此君す
も形りしかば。使うつり此よりしかくとか。原要事
まひて扱かれらがていハ。何しまつけるぞとこいまへハ。

さんはいふしへに引くへ。さびしくハこゝぐしぎすがそこ
うき此ありさ母まて。ひこうせかのひとごうさしく
かうかれハ。原どのさうまひ。いつまてふく笛(ふえ)なりさん
あらむさんや。なむさんぼうと。念仏ア。ぞうれもらけ
とよびアされけるハ。かり忍とよへハ。かやうに居まもか
しこくしまハかくつやうじやうア。扱なまとせん
かり忍此るすこくならバ。めんくとしあんをんはて
とくるまへまらぐ。いかまもしてこちてこへ。何らの
春(うや)ほとも思ふへしとのまへハ。ぞうれ形り此ゆまと
思しめせ。我又いつとり此をやりてたまうんとすて
小此をそうれけり。おやまてこゝ知ねんさんアてこゝぐ

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190
ガラス使用

阿波國文庫

京都文庫

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

とうすゝみけれバはぢさりしハ家のうちへはせいりてみれバ
こせうとのちからにおそれてくしやうしなすつてそのまゝは
いへゐの仏式(ぶつしき)もすぎ酒もたまりけりふ家どの給
ひけるハはやうなきさうぞくありてのちに思ひしつらんびやうの
とうくとゆかしの御かたへまいりければ女中もおどろきめせ
ひめをこしてよしもあしまたはれてこゝろにひらうに三月(つき)み
ゆかんとおほせつけれバおそれはべりてかやうに
らんやうのかたへハはやそうしハまうしめしぞれやうかや
きたるかかりとそやうてしばらくの用意とぞひし
めりうしや家とのはしようこびハかぎりなしそれより(うちに)も
しんバ七千疋のひきさるハ八十文枚のちぎおびつけハりようとして
へいせいハ家どのより百貫余をつけさせけるがそのうへ大
せいハむかへてはじめしのちまハさかつきハ百貫斗(ばかり)
そばまいられけるがきちねんよろしおとのその月のしやう
ぞくハおやのとこそてふせのかれ大くちげんめんしやう
ひろしれなつげのむかしさやまとの太刀
くしばかりのはたらせ太平くろのやなくてむてまけ
のちのまん中とふかひろきんにおさせおいてかり
とのからをとげちゑゐあり御きこにゆくしみ
えのふさそてひめ君はいとおもしひしのへバひめ君の
こやそとやかんバかうくのあれバそれせおと
までふ屋くといつくおゝきんといさみきくうつさふ

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

ゆめハきゝしうすまとやなれハとて各いでくちぐさぐさ此ゆ
へいりぐへこしへおりくんとしけるまゝおまうまとてむ
どろきぐむなさまとぎきゝわましなれバこれハそくるす
なしとつぶやきけるおまゝひへ一人と御りけるがか
のこれややうぐ此山のあなくまこうぐひくうぶと千騎がら
ひくてくをまろけしきまてゆこころへ多へといひ
すそこ御りなれハぐれバとそぐりどこをまちけるる
んぐこれまちまれぬきれまゝのくせとひし
めるぐ此ぞうしハひめまゝわさいしせまふ此こそぞと
なつしくて此ちこまめされけるおやのこそぞとひ
つきみこんぢのあしきのひくれまゝ同しけの文枝

かぶとまろりぐさ打てうめきれたり古よきの此せい
のまん中まこしせまふまそなひぐんくまいともいひつ
へしぐるれどふ上田かくらとぐぶ〳〵とお田ませまへハ
げまもかくきる綾りりおなくこゝなくこのぶりけたま
あひまゝんのごとくいくりけりぐれどもなり此此世
いもひきこるなかりちはまなれハ三十町おまりつゞき
くりぐそ上田山ま松の二三本ありけるをこゞそふ
とりぐむしや一人よせこさくる紙入れバぴとゞしのまろ
いま又まいかふどのとくしめ犬なりぐろのやりしらだら
まとうてつけぬりごめどうれゆこのまん中ふぎらよ
こゝへすゝ出てややうぐもつけの出なり此のこゝ此れ

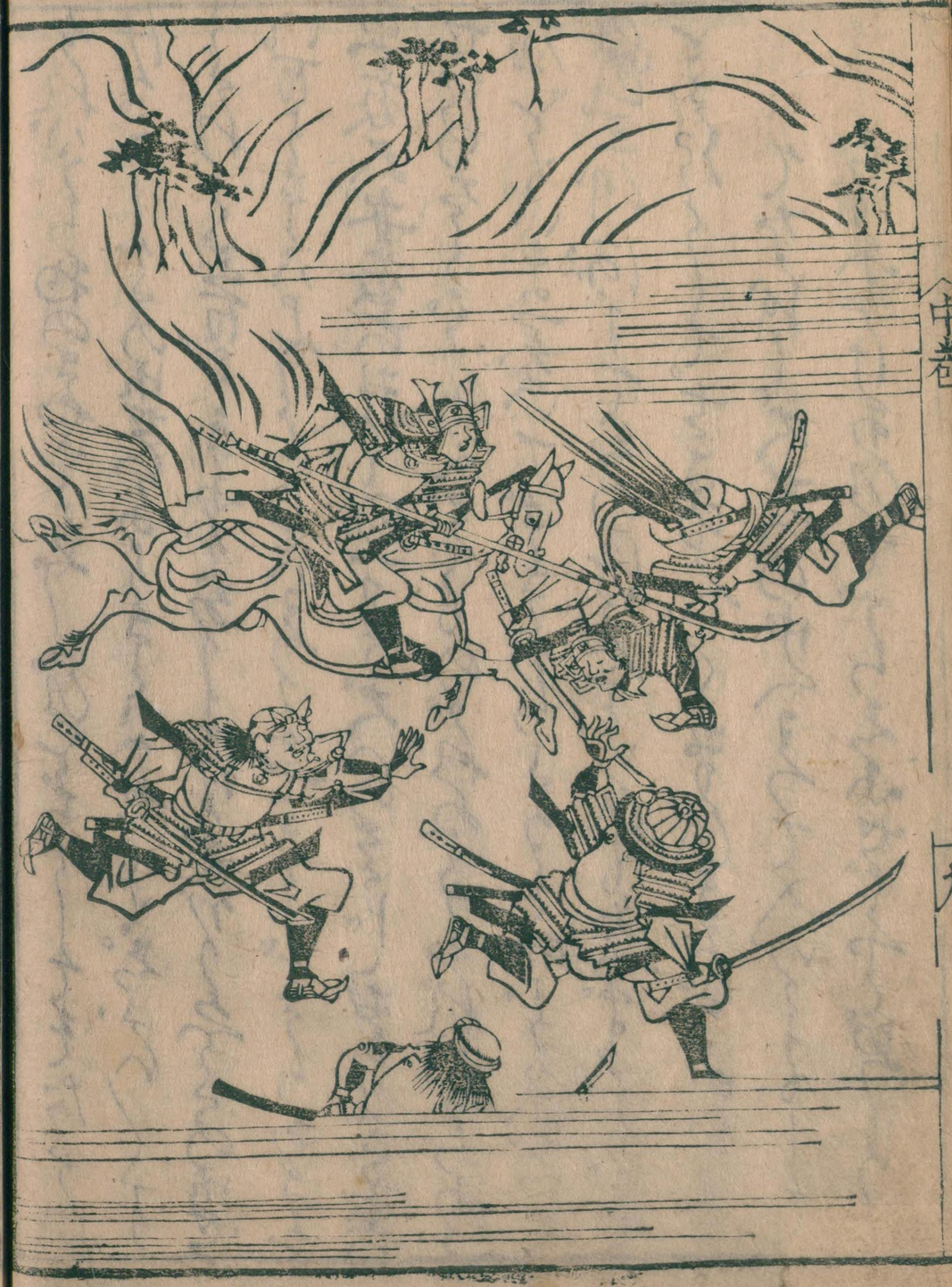
国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190
ガラス使用

純の法しゆうらくとうけゝゐりぬ。ぴこのよゆくしまず。
宿友法ながもちのたつとやうけてぞんこゝやうとつがん
とてぴれどうちまちまふけてゝ。法たつとまつらせた
まへと。大ゆんあげてやかれば。安友又すこゝかやうゝ。いつ
まやとのぞらぷ。ぴでこふちご。里まへねうがう。ぞゆくよハ
宿友とそやかれぷんぢがやうのまれと。ぴぐちがう
ぐうといふ。ながもちのたつとほしくハまぢりく系
れとてぬもかけずとまりのふ。かのまれややうゆくき
まものがこゝへかぷ。そのぎなくハうまや一すじまつら
せんぷけてゝんよやといふまにすこぞくようびき
なかしかれば。安友又かゆんでのそでにしたてかよこれ。

安友又たゝとゝうて。ニのやといさせじと十又ぞく
こうぶせ。よつひきこゝしかゝあてたるすやまぐれ
乃むかいこいとしぷしろよひかへたる原のげんぞう。
よろひのうらうきてがりぷれをいろきのたじめと
してぷかゝきみたいろみぐれ。命とおしまずたゝかい
けりぷさても原ぐのより平又平六とやものよ。四百よき
のせいとそへ法ざうしよつけまつらせしも。原のまれ
かまゐきかれば。おひづとやしたりけん。ぞちまちうう
ろりぷよりぞこ絨うゝんとす。されどもかりゑのまぜい
百よきこ面もふらぬ切てまれば。四百よきのこものども
かかりじとや思ひけん。一町げりひきこゝりぞくニぞん

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

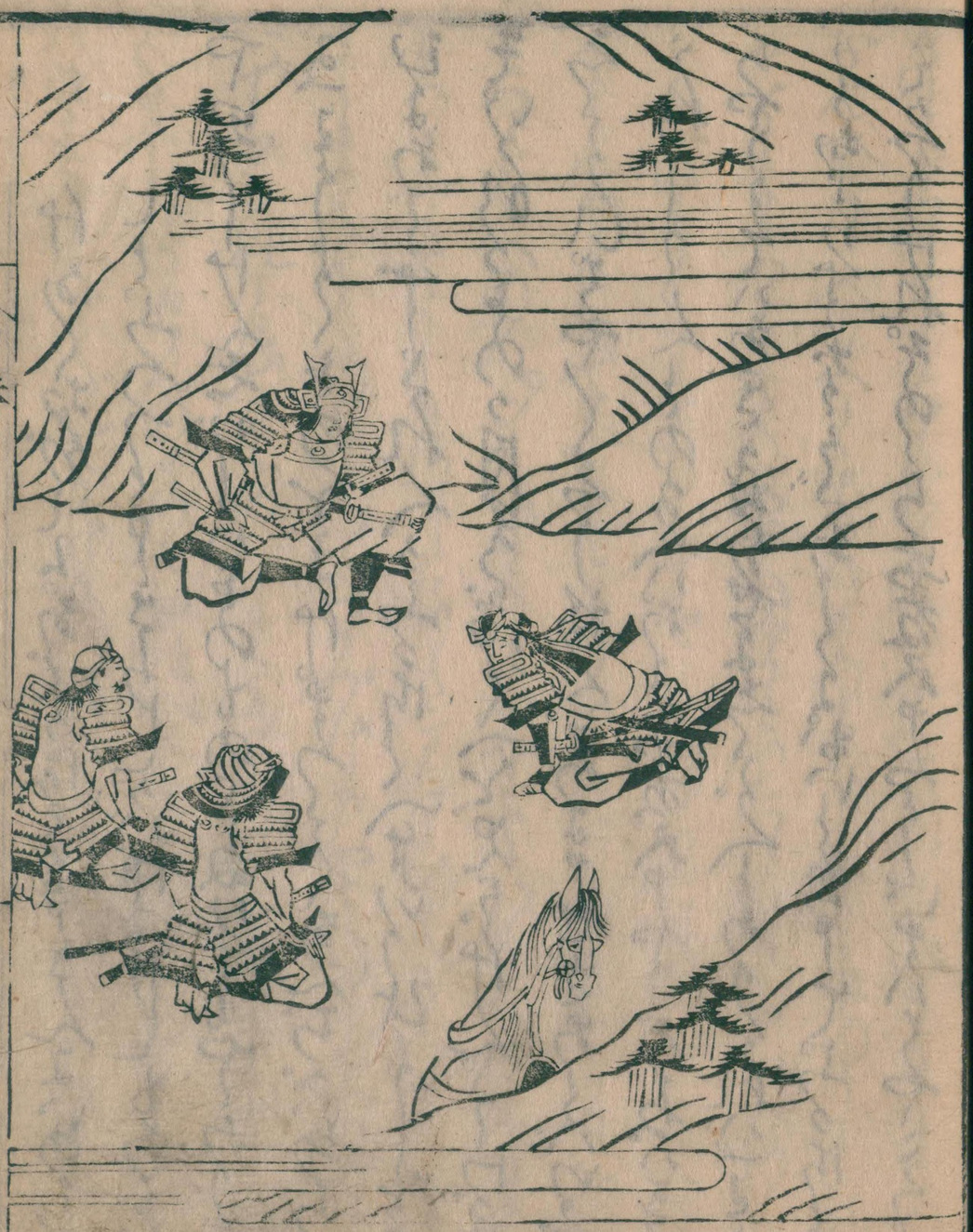
ガラス使用

ふれゆやうげまさるおき父のたくえなりけりか
がらぎやとる男のいのちをうろんずることはまれなり
らねなりひえいまいのちをとゝまりてはまつごいの
ちぢくさるへしその所ねんありがたくはたづども父乃
こあまそんいのちぎらふうらえなし。そこ所てまかり
るすこそなんかうまて且へとそねんふけ同又へんこなへ
まやとくくとありなれバちらおよりがずぐびかさろ
てこちのさ所にはらぬき父ちせいのなくへかけりぐ
りでくるハ十りんじまきらめづりなへバまりてふまて
し人も所しいまハなまともしてぬらよあふてしやうぶ
せんとおぼしめすところに沈るも兄弟（きやうだい）こゝせて。ひ

ねんにハおりへどもとそもわがちらしにハなりがたくしとお
りひてこゝしことさまよふところに沈らがぜんせ
のしやくこうのがれがたくやありけんぬとめをきつと又
あるせなれバたがひにきつてうらぬ。こゝこけるづして
みさのひさくちながれていぬいにまろぶぎいごのこと
まぞあるれなるいまなりしどのいやしさこのてまかく
らずして所へんのしまかなるせめてのようこびな
れとやもまてずおしこのつゆとうなりにけり所ざう
しハ。ぎすがなさけのみちなれバおもれとやおぼしけん
所波（なくらご）となずしのまふハふしごやされふまできやうぶ
まてありし男の三人なりけりてにかけうしなひ

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

阿波國文庫

阿波國文庫

不忍文庫

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

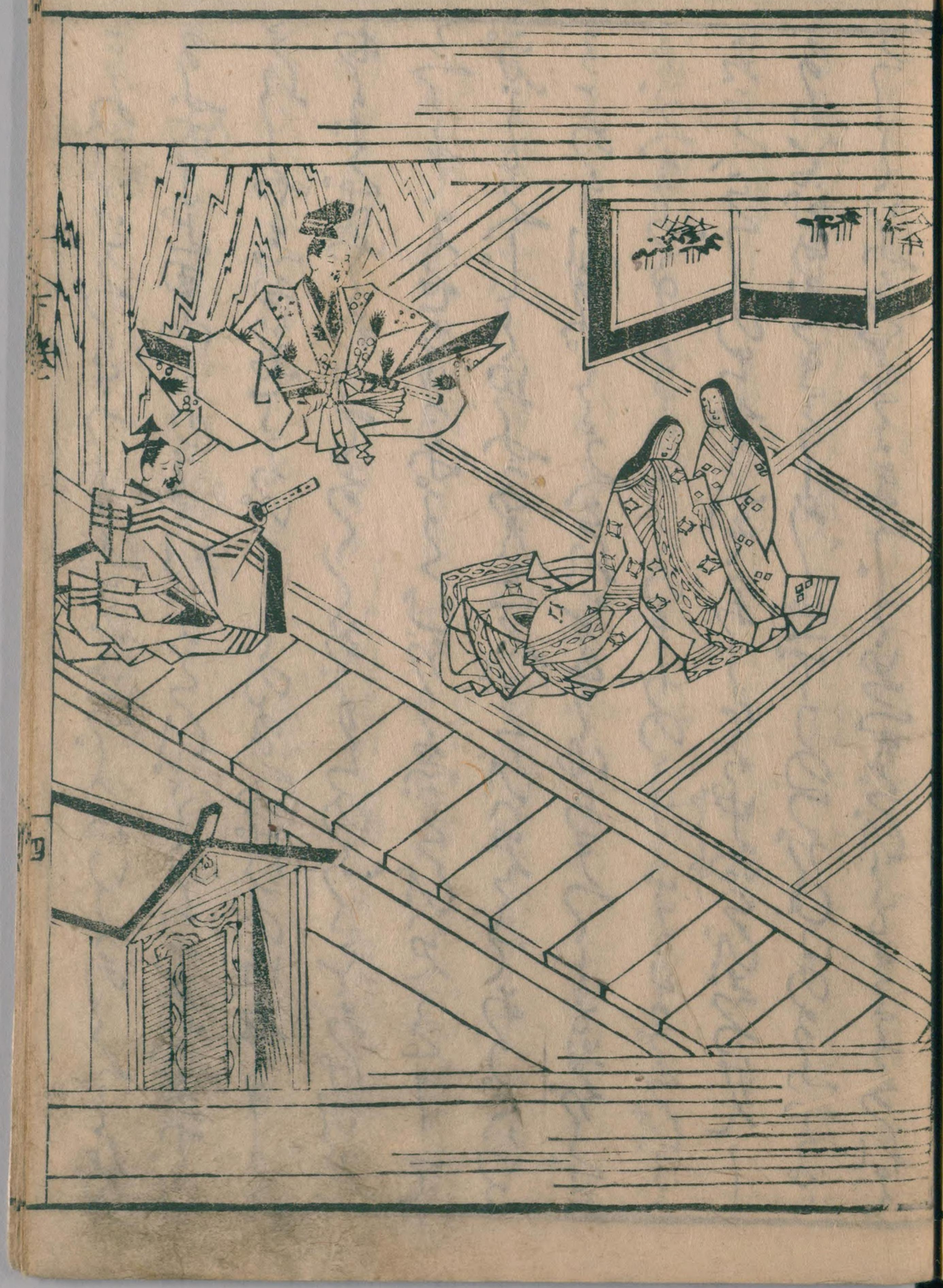
ガラス使用

いてきれよ。扱はしもまれ十二人のゆきしやねうがさら
たしこ物はいるまでぞりひくはいでこちたるめきて
ぞ見てまけり。京のこちへいりこ多へはぞこへまちつゆさ
宿はけしきまてぞうしとよせやぞてワ[illegible]といざきて。
いつくしやめづらしやとひしめきあふ。京どのいでおひ娘
君はの給ふやうこれよりやきぞしもおやはこひしく思ひ
おひはやおやの思ふれどおはせもまぬこのこゝろやとう
らこゝろのとやきうしぞ又ねうがうこちはまうぞといざきこ
まりぞいつくしのはるやかり京どのよしもちがせ
給ふてくらくはやけぞやりくもふけれ
ハぴめ君六でうの給ひとひしつこゝろまうしがう

あつきがこまぞ女ぞうこちとおこしのかふはだゞいまふ
しぎのゆめと見るぞづしまぬ山中はまひしが
はぞうしあるまにげはぶとをきこまつくしてぞ
むきまふしおひしかはいりれりはるやこゝろ[illegible]れ
男ゆへはなりゆきしまぞうとはらんぜよぞんじやれ
ちがらうすくともぞらいせはひしつくらはれ[illegible]
なるへしぞよりも月をかるまこそおがつるなれぞよ
りしてそぞてうみはもしまへぞよりは後はゆめまも
見てがうしてだれこがれかふ程はこれはいかるを
とやれはぞ身くしのうへこゝしてくるん
今はそはかりと思へうへこゝぞまひりかはいつかふへき

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

京

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190
ガラス使用

くとして日光山のぬりとふぐ[illegible]まりぬ。しかくのるすとゆせ
ぬぞうへもみぞの袖とぞかきて入やうまなきまふ。これハ板
ときこくしハぞうまがむとめ十六才まなるとむかひとる。又原愛
まハ月もまぐ[illegible]ぐらうと記なりとて。めのとくうまふおいおとて。ぞう
まこれをきくこくしまゆけるハ。ぞりゑのこうぶ子此月をとゆ
ハ三才まなるときくいけておりせまりゆくしき[illegible]るまなるへ
しとゆせハげにもとて原へつるいとこそまふ。原どのいそきた
づまりしまいらせしるこくしげんじていこそしくハおぼし
めせたがくておくへきるまなるハぞうまふもうへとの[illegible]。
うけるぬりとてなきけもしらぬらうこうとめしぞりと[illegible]
けんが原のかりとふあるなりのいけまでづめゆせといひけけ

なれバかしこまつるうとていそぎ[illegible]ゆきゑるまこのともおきふ
ぞ[illegible]谷へいるものこ度かつるまりしぞのたるさ三十四町池のふ
うきハせんひろえぞりぎをひつさげふぞくへなげ入てつり
はりしさうまゆなれバしくもしるうとておうびとぞうゝ
せけるさて又ゆるものとハぞれをなげきてともかくもゆ
ぞのおうせなふ所にてぞりしぞんまのちゆへまりかや
くのせめまもりろたまおぼゆと思ひてこうしの[illegible]へゆき
けるがなりの池まぞづめゆよりせきくいげくとおしるゆも
たどろくとの山へうづまゆきぞれたゆくるぬりぞ[illegible]
お月廿日おまりのるなれバおくし小[illegible]をげしくてぞぐれ
がらなるうもを雪まぞみまふおぼうふへうぐらぴう[illegible]ハいづくふ

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

ふしひくいたちのあとをうしなうじとぞ○ゆけばぞ
りしやつぞゆきまうづまれておうしまぞめのとあまり
のうしさまいぐさあげなれぱうまりたてまひうあり
さぬえまづふところへいれさいせてぷのうちよきもんすう
やうぱそこいまの池のあうじもあれとていまつぶ店めと
あけさせまへと天にあふき地よふしかれぱ天よそんもあハ
れとやおりしけんぞぞまくありて店みたしあくて
ふあり店めとひらせまへぱめのとゆめのさめうろ心地よ
ておさましの店ありさぬやうりぞ店くまわうなくまうし
せまひこれさへうれめ我ひうまのうましやとかれども
何心もなくめのとふいぐきうきまへぱとこしかの心ひ

なりかくてうりしふとまけいでどやせんうくやあらま
しとあんじけうがまづく日えんふのうへうづ○さいうん
とみりひしが身も清れ心ぱうしいかさうげよやしいうう
まおうしういたせのごんのうとかせし行るもうりしかう
ぬへが子とりちうぬりぬるとなげきぞまのへうしもふで
としげうしまふとてぱこうぞといぐきううしの店こ
とやこれとこうぞ子とおもりんふいけうばうりうれしかうへし
のうぬへぱめのとかやういふたひへまうしめせこのひぶ
ハ父もうとも取し店のそこなうばさいうせんとかうれぱこん
のうこ大きふようこびそのぎなうばとてぷのと大まこし
まのせみちのうへぞくぐりけうきうのうこ店らんじて

とのゝ御るすハさておきぷりぎゑといぐさぷさてくいつらしれ
ワりぎゑやとてぷ十二人のめのとをそへ父母のてうあいかぎり
なくぷつきかしづきまゐ御ゑりのおどやまりなし
ぷやや七歩まならせまへバいはせのまゐやうぷりぎゑよこもの
心ともしらせやさんとてぷつまうしへのがせらぬぷく
りんのちつめいぷいちじとさてせんじと御ゑりぷれかゝ
きやうげんぷさぎよふいたるまでぷのへまもぐれかふぷてやかく
十五さいになりしせまへバそのときおくより見えてとしやう
じげんぶくさせぷいはせの小太郎いへむくとぞなのらせ
けるぶん母のさろしやよのきこしぷぷくやもおろうえかく
てあしつくしまゐ猶ぷぷしの二月十三やの月ぷや

おぼろまさちかすこおりしろきふぷさちおんとも有し詠
まひしまぷわるふせやの内ぷしぷのふうぬ掛ぐるりもちるを
きまへバぷてもワりぎゑありがゝ見御ゑりおうるぷいるれる
人の御子まてまたしせまゐんといふをぴそまきしめ
しぷさてハいはせぐのハぷまとれおやまてなりけるぷふ
りしてあぎやうまきうんと思しぷのとをちうづけしう
くのるすをのまひくぷいかまとこいまへハ六でうぎゑ
てうやうのるすおおせはぞやぷいはせぐのよりかぷのうやの
まし内まへきぷうつまの御るすやとやれバぷりぎゑなるふを
ながし心ふりくもかくまとのかかとてぷあくとおきまへハ
さすがふりぐしがくしぷ又おりぎゑのるすおひいて御ゑ

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

おそはしせまふぞまそのまはゆるしまへとてぞしこさを
立さりしやまひあつくしそのこちこうしをうへきしこえ
ぞうぞけの面へうちうしぞうまをうちぞそこうしをうへ
へきとのひやうでうえぞきしうへしとて月のどの出せいえ
ぶよきまてぞもつけの面しやこかつまひかへふ月の
どのむりしのあとをうぞ口語ひくぞ一ほうと二人ゆ
あしてぞりゑのこちをぞんぞれぞれぞれてうけしき
まてぞいぢゝりれたおかいあしぞんはあれたとびうあしぞよ
しへさしてありつゝんと思ひやりぞうぞうこちあふぞかく
つとけるあよ六十あまりある入道見しきうろ月の出んし
てゝ身はいうあるへそこうぞ口まへぞれは此所のぬしぞうゑ

どのゝ出めのしぞ安藤ぐしゆきのゝあやまてはぞりゑどのこう
れなふとき二人のまた出ともアてうちじよ仕りてトぞ又ひりだ
二人ましくはひしぞうしよりさぞまひぐしぞりせんの此
まさづめまふぞいさてましまさはこれ祖よそおりまうんぞく
かいあさ名あぐへつさせぬ物ありひよそうしあれとさる
くとあさふかぞ月の立より入道ゆ仲よ取付我よそうし
あれし月のありとてぞしめおりのまをかゝりゑへば
入道ゆめうつともまたまへぞぞれしさまも又あらぐあり
ぞそれより月の夜の出ともアぞんあへしやまありぞぐさう
まぐらへおしよせまふおりひよしぐうるあれば さうまは
あぐしゆのまふうちとり又こうしの所所へおしよせまへ

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190

ガラス使用

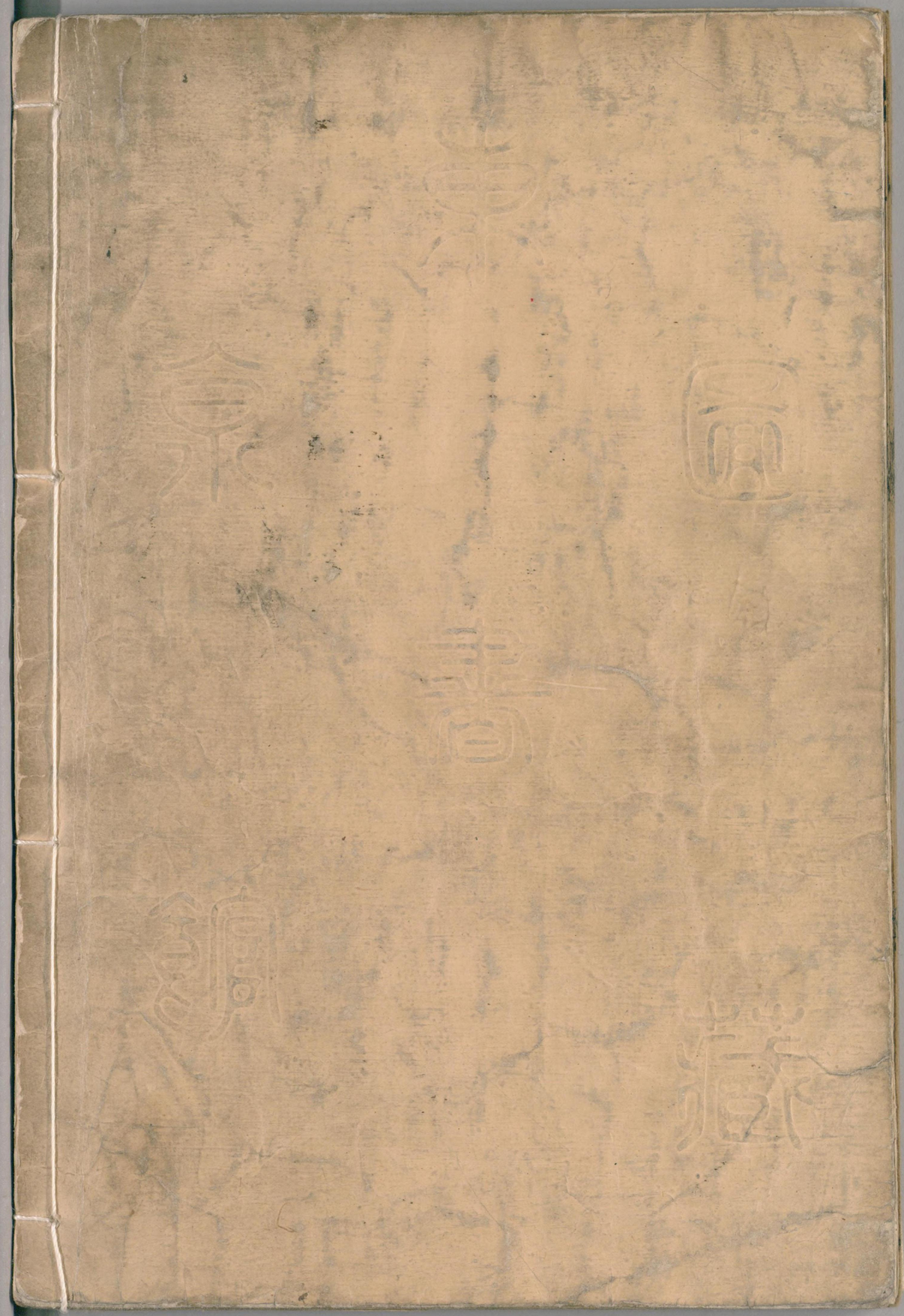
京 特別 190

ありぬさて月の夜ハ。ふつゝかうしの姫りとふ。おりしますぞ。うじ
はせんと。むりひとりさいしせ大方夜とゞんづけて。いはく
うつゝうさ夜くんぞれよりいよく国をおさめ。民をおの
夜へぱす急をんじやうにさうへさせまふめでたうりしるを
なり
ありは物語終

阿波國文庫

寛文七年丁未十一月吉日　此年月
堀江十三合出生
野田源兵衛板行

国立国会図書館　タイトル『堀江物語 3巻』 請求記号 京-190
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『堀江物語 3巻』　請求記号 京-190

ガラス使用